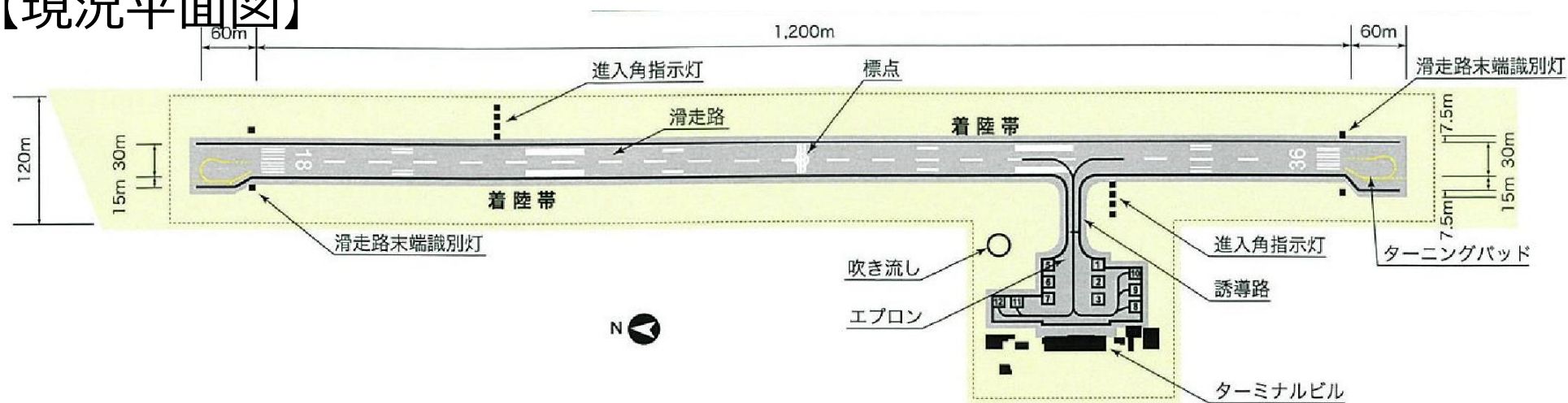


# 1

## 福井空港の概要



【現況平面図】



# 1

## 福井空港の概要

### 【空 港 諸 元】

位 置 : 福井県坂井市春江町江留中

運 用 時 間 : 午前9時から午後5時まで（午後5時までに日没の場合は日没まで）

滑 走 路 : 1,200m×30m （着陸帯 1,320m×120m）

エ プ ロ ン : 8,634m<sup>2</sup> スポット11バース（1バースあたり14m×12m）

空 港 ビ ル : 1,521m<sup>2</sup>（福井空港(株)、福井県）（S40年度竣工 築58年）

給 油 施 設 : レフューラー方式（航空ガソリン(アブガス)、ジェット燃料※）

格 納 庫 : 防災ヘリ、ドクターヘリ、県警ヘリ、福井空港(株)、民間事業者

気象観測施設 : 風向・風速、気圧、気温等の各観測施設

駐 車 場 : 146台

※アブガス：セスナなどの小型機で使用、ジェット燃料：小型ジェット機ヘリコプター等

## 2 利 用 状 況

- ・ 定期便は就航していない  
1966年7月－1976年4月：羽田便が2往復就航
- ・ 自家用および事業用の小型機、ヘリの離発着  
(離発着回数はp10記載)
- ・ 学生の課外活動としてグライダー利用  
現在、東海・関西学生航空連盟が使用  
(毎年2月～11月の期間)
- ・ 操縦士ライセンス取得の訓練  
着陸回数：1,383回
- ・ JAXA等による研究開発の場  
令和2、3年度に滑走路雪氷検知技術の実証実験  
令和4～6年度に被雷危険性予測技術の観測実験
- ・ 福井空港スカイフェス等の航空レジャーイベント  
隔年9月下旬（空の旬間）に合わせて開催。  
令和5年度の来場者数 約2,000人
- ・ 防災ヘリ、警察ヘリ、ドクターヘリの活動拠点施設  
令和5年度着陸回数：  
防災ヘリ270回、警察ヘリ135回、ドクターヘリ323回
- ・ 災害時の救援基地  
能登半島地震では救援活動（p12記載）



## 2 利 用 状 況

### 【利用状況】

#### 空港の着陸回数（過去5年度分）

| 年度      | 固定翼<br>小型機 | 回転翼<br>(ヘリコプ<br>ター) | グライダー | 合計    |
|---------|------------|---------------------|-------|-------|
| 2 0 1 9 | 985        | 728                 | 1,778 | 3,491 |
| 2 0 2 0 | 738        | 687                 | 591   | 2,016 |
| 2 0 2 1 | 1,283      | 969                 | 669   | 2,921 |
| 2 0 2 2 | 1,300      | 1,044               | 1,144 | 3,488 |
| 2 0 2 3 | 1,676      | 1,007               | 1,940 | 4,623 |

R 5 年度、全国108の空港等を対象とした着陸回数（国公表資料）において福井空港は4,623回で43番目となっている。

# 3 能登半島地震での活用

物資等の搬送や警察、消防、自衛隊の活動拠点として活用

## 1. 物資等の搬送 自衛隊ヘリ（4回）

- （1）病院食の搬送
- （2）入院患者の搬送

## 2. 県外の県警ヘリ・防災ヘリによる利用

（令和6年1月1日～31日の着陸回数 68回 ※R5年同時期20回）

### （1）警察

警視庁、大阪府警、新潟県警、兵庫県警、広島県警、高知県警、京都府警、福井県警

### （2）防災

和歌山県防災ヘリ、大阪市防災ヘリ、兵庫神戸防災ヘリ、京都市防災ヘリ、  
名古屋市防災ヘリ

※その他にも民間による支援物資搬送ヘリ、報道関係などの利用あり

### 3 能登半島地震での活用

#### 【能登半島地震での活用】



物資（病院食）の搬送



入院患者の搬送



防災ヘリ等駐機状況



空港ロビーでの患者受入調整

## 1 福井空港の現状

### (1) 利用状況について

- 昭和51年以来、定期便は就航していないが、学生の課外活動としてグライダーによる利用が活発であるほか、操縦士ライセンス取得のための訓練施設、スカイフェス等の航空レジャーイベントの会場等として活用されている
- 県警察航空隊、県防災航空隊のヘリコプター、県立病院を基地病院としたドクターヘリが配備され、県民の安全、安心な暮らしを守る活動拠点として、また広域的な災害対応の拠点として活用されている

### (2) 施設について

- 滑走路：長さ1,200m×幅30m、駐機スポット数：11か所、運用時間：9時から17時まで（17時までに日没となる場合は、日没まで）、供給燃料：航空機ガソリン、ジェット燃料
- 空港ビルは、建設から57年が経過し、老朽化が著しいものとなっており、建替等が必要と考えられる  
ビル内は、管理事務所のほか、事業者貸部屋、研究等による貸しスペースとして利用されている

## 2 福井空港の将来像

将来の空港の姿として、グライダーを含む小型機などによる現在の利用者と共存しながら、離着陸の時間調整などに柔軟に対応できるという特徴を活かし、以下のような空港を目指す

○多様な形態の小型機による、観光やビジネスを中心としたスポット的な利用を促進し、長期的には、地元理解等を前提に、定期的な利用を目指す

○防災、救急医療の拠点として、大規模災害時に対応できるよう機能強化を目指す

将来像を実現するために短期、中期、長期に分けて進めていく（詳細については次ページに記載）

### (1) 短期（目途）R5年度～R6年度＝挑戦

- 様々なモニターツアー等により、福井空港の利活用の可能性を探る
- 利活用の状況を踏まえて、具体的な新空港ビルの構想（案）をまとめていく

### (2) 中期（目途）R7年度から5年程度＝実践

- 事業採算性のある取組の商業運航の開始を目指す
- 新空港ビルの構想を踏まえて、空港ビルを再整備する

### (3) 長期＝飛躍

- 駐機スポット数や格納庫用地の拡充などさらなる空港施設整備を検討し、定期的な利用を目指す

## (1) 空港全体の機能強化について

### <短期> (目的) R5年度～R6年度

- 民間事業者によるヘリの運航について、市町と連携して県内主要観光地付近等（スキージャム勝山駐車場等）に場外離着陸場を確保のうえ、広く試験飛行を実施して活用の可能性を検証し、観光目的での新たな利用を提示する
- プライベート機や、小型ジェット機のチャーター利用について、離着陸の時間調整やエプロン内での乗り継ぎに柔軟に対応できるという特徴が一般に認知されていないため、営業ツールを作成し、県外事務所等と連携するなど利用を呼びかけるとともに、旅行商品のモニターツアーの実施などにより、観光・ビジネス目的での利用増加を図る
- ビジネス目的で小型ジェット機を利用する企業への補助や、未婚のカップルを対象とした小型ジェット機による遊覧飛行の実施
- 国外からのプライベート機の受入に向けて、C I Q対応について運用を検討し、さらなる利用促進を目指す
- 既存の空港ビルについて、離着陸手続きの動線変更やロビーの展示内容のリニューアルなどにより有効活用し、利用者等の満足度向上を図る
- 9月の「空の日」にあわせたスカイフェスの開催や、体験搭乗会の実施など、地元住民が空港に足を運ぶ機会の増加を目指す
- 燃料給油や機体整備機能の維持を検討するほか、グライダーや小型機による継続的な利活用を図る（※中期以降も共通）
- 空港運用について、現在の空港施設（照明設備なし）での運用時間の延長を地元と調整のうえ検討する

### <中期> (目的) R7年度から5年程度

- 民間事業者によるヘリの運航について、プライベート機や小型ジェット機のチャーター利用との接続も視野に、ヘリの運航事業者による県内主要観光地等を結んだ商業運航の開始を目指す
- 国内のプライベート機や、小型ジェット機のチャーター利用について、県外事務所等と連携して営業活動を継続し、更なる利用増加を図る
- 国外からのプライベート機について、海外事務所等と連携して福井空港の利用をPRし、福井空港での受入を目指す

### <長期>

- 空港運用について、照明設備を新設したうえでの運用時間の延長の検討、アクセスの向上を図り、さらなる活性化を目指す
- 空港ビルの再整備とあわせ、駐機スポット数や格納庫用地などの空港施設を拡充し、地元理解と事業採算性を前提に、現在の福井空港で離着陸可能な航空機・ヘリによる定期的な利用を目指す
- 駐機スポット数を拡充し、大規模災害時における防災ヘリやドクターヘリの参集拠点としての機能強化を図る

### <さらなる展望>

- 貨物輸送については、安定的な需要の確保、輸送コストの縮減といった課題があるため、今後需要を探り、定期的な輸送の可能性を検討していく
- 機体整備工場、航空運送事業者の活動拠点、空港に関係した体験施設などの整備については、今後需要を探り、可能性を検討していく
- 「空飛ぶクルマ」など次世代モビリティについては、国内での実証実験の進捗を見て、今後、受入れに必要な対応を検討していく

## (2) 空港ビルの再整備について

○令和5年度から6年度にかけて、利活用の状況を踏まえ、入居者や地元等関係者と協議を行い、現空港ビルの管理者と調整のうえ、具体的な新空港ビルの構想（案）をまとめる

○令和7年度から5年程度をかけて、新空港ビルの構想を踏まえ、空港ビルを再整備する

| 目的 | 管理    | 旅客利用等の増加                | 地域交流等  | 利用者の活動スペースの確保 |                 | 旅客利用の増加            |                    | 利用者の活動スペースの確保                  | その他利便性向上          |
|----|-------|-------------------------|--------|---------------|-----------------|--------------------|--------------------|--------------------------------|-------------------|
| 機能 | 管理事務所 | ロビー                     | 展望スペース | 事業者用貸部屋       | 会議室<br>(共有スペース) | CIQスペース<br>(海外客対応) | 受付スペース<br>(カウンター等) | 待機、休憩所<br>(乗務員、飛行訓練者、災害対応従事者用) | 飲食店、イートインスペースの整備等 |
| 現状 | ○     | ○                       | ○      | ○             | ○               | —                  | —                  | —                              | —                 |
| 将来 | ○     | 現状有する機能について継続の必要性や規模を検討 |        |               |                 | 追加の必要性や規模を検討       |                    |                                |                   |

## 4 福井空港の将来像

将来の空港の姿として、グライダーを含む小型機などによる現在の利用者と共存しながら、離着陸の時間調整などに柔軟に対応できるという特徴を活かし、以下のような空港を目指す

- 多様な形態の小型機による、観光やビジネスを中心としたスポット的な利用を促進し、長期的には、地元理解等を前提に、定期的な利用を目指す
- 防災、救急医療の拠点として、大規模災害時に対応できるよう機能強化を目指す

将来像を実現するために短期、中期、長期に分けて進めていく

### (1) 短期（目途）R5年度～R6年度＝挑戦

- 様々なモニターツアー等により、福井空港の利活用の可能性を探る
- 利活用の状況を踏まえて、具体的な新空港ビルの構想（案）をまとめていく

### (2) 中期（目途）R7年度から5年程度＝実践

- 事業採算性のある取組の商業運航の開始を目指す
- 新空港ビルの構想を踏まえて、空港ビルを再整備する

### (3) 長期＝飛躍

- 駐機スポット数や格納庫用地の拡充などさらなる空港施設整備を検討し、定期的な利用を目指す

## 5 委員会について

### 【目 的】

令和5年3月に策定した「福井空港の将来像と今後の取り組み方針について」（以下「将来像」という。）において、58年が経過する現空港ビルの老朽化が著しく建替等が必要であるとしており、本委員会において主に以下の観点から、空港ビルの再整備に向けた具体的な構想（案）をまとめていくことを目的とする。

観光やビジネスを  
中心とした空港利活用の促進

防災拠点としての機能強化を  
含めた空港ビルの再整備

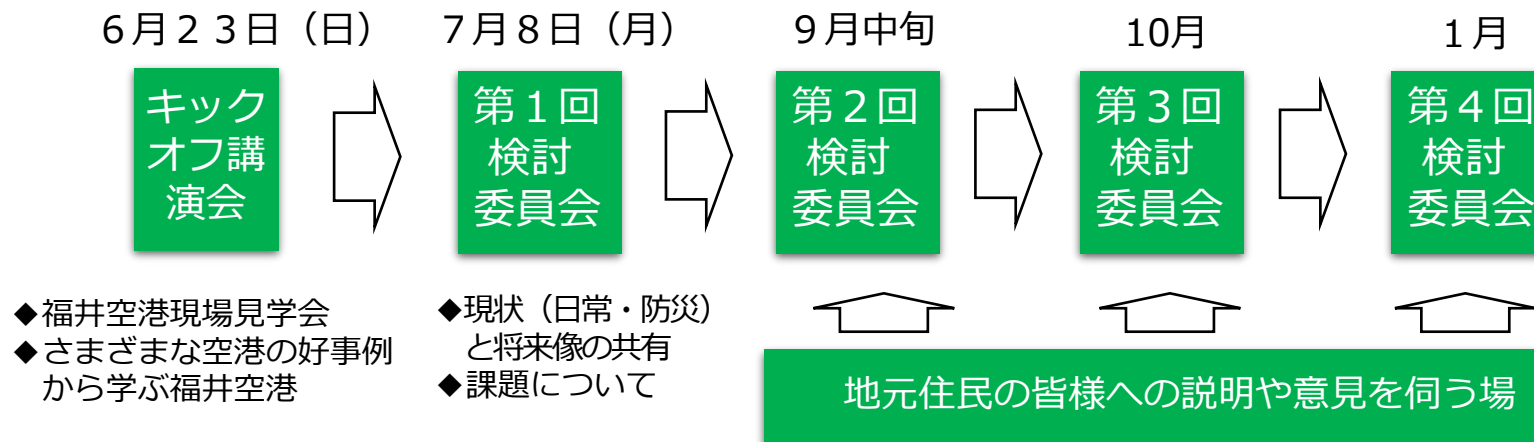
# 5 委員会について

## 【スケジュール】

### 1 将来像における空港ビル再整備スケジュール

|                            | 短期【挑戦期】                                        |            | 中期【実践期】                                                                                             |                  | 長期【飛躍期】                                                   |
|----------------------------|------------------------------------------------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|-----------------------------------------------------------|
|                            | R5<br>2023                                     | R6<br>2023 | R7<br>2025                                                                                          | ～<br>R11<br>2029 | R12<br>2029<br>～                                          |
| ○空港ビルの再整備<br>○防災拠点としての機能強化 | <div>空港ビル再整備<br/>構想とりまとめ</div> <div>本委員会</div> |            | <div>空港ビル再整備</div> <div>調査<br/>基本<br/>設計 → 詳細<br/>設計 → 新ビル<br/>建設<br/>工事 → 現ビル<br/>取壊<br/>工事等</div> |                  | <div>空港機能の拡充</div> <div>（新ビル再配置により<br/>駐機スポット数等の確保）</div> |

### 2 委員会スケジュール（令和6年度）

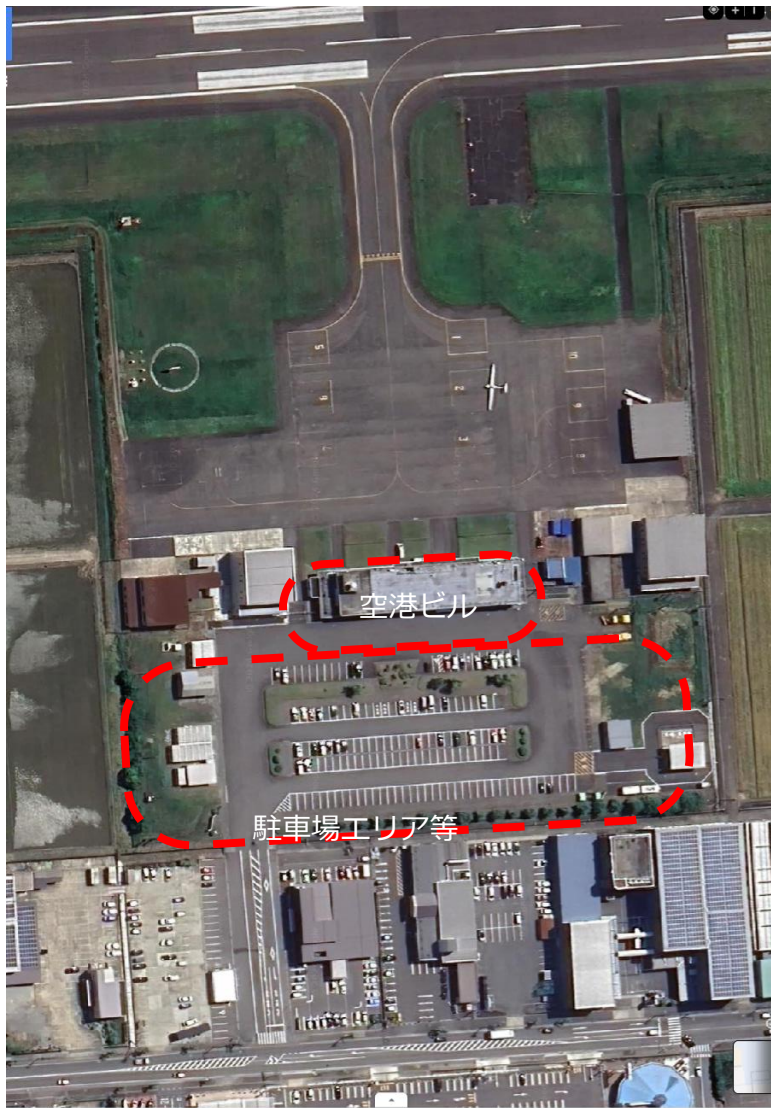


## 6 ワークショップ検討項目

### 空港ビルに取り込む機能（施設）を検討

| 目 的               | 機能・施設例                             | 現 状 | 今回検討                    |
|-------------------|------------------------------------|-----|-------------------------|
| 空港管理              | 管理事務所                              | ○   | —                       |
| 旅客利用等の増加          | ロビー                                | ○   | 現状有する機能について継続の必要性や規模を検討 |
| 地域交流等             | 展望スペース                             | ○   |                         |
| 利用者の活動<br>スペースの確保 | 事業者用貸部屋                            | ○   |                         |
|                   | 会議室（共有スペース）                        | ○   |                         |
| 旅客利用者の増加          | 受付スペース                             | —   | 追加の必要性や規模を検討            |
|                   | CIQスペース                            | —   |                         |
| 利用者の活動<br>スペースの確保 | 待機・休憩所<br>（乗務員、飛行訓練所、災害対応<br>従事者用） | —   |                         |
| その他利便性の向上等        | 飲食店・イートインスペースの<br>整備等              | —   |                         |

# 6 ワークショップ検討箇所



## 【検討箇所】

### ○対象

- ・ 空港ビル（新ビルに含む機能）
- ・ 駐車場、隣接スペースの活用  
（制限区域外の一般者立入可能区域）

※駐車場等は空港ビルの再整備に合わせて縮小となる見込み

航空写真（1966 国土地理院航空写真）



空港開港当時（開港直後）

空港前道路は南側から空港までが  
2車線となっている。

- ・ 周辺は田んぼに囲まれており、  
ほとんど建物が無い

# 7

## 空港周辺の変遷

航空写真（1975 国土地理院航空写真）

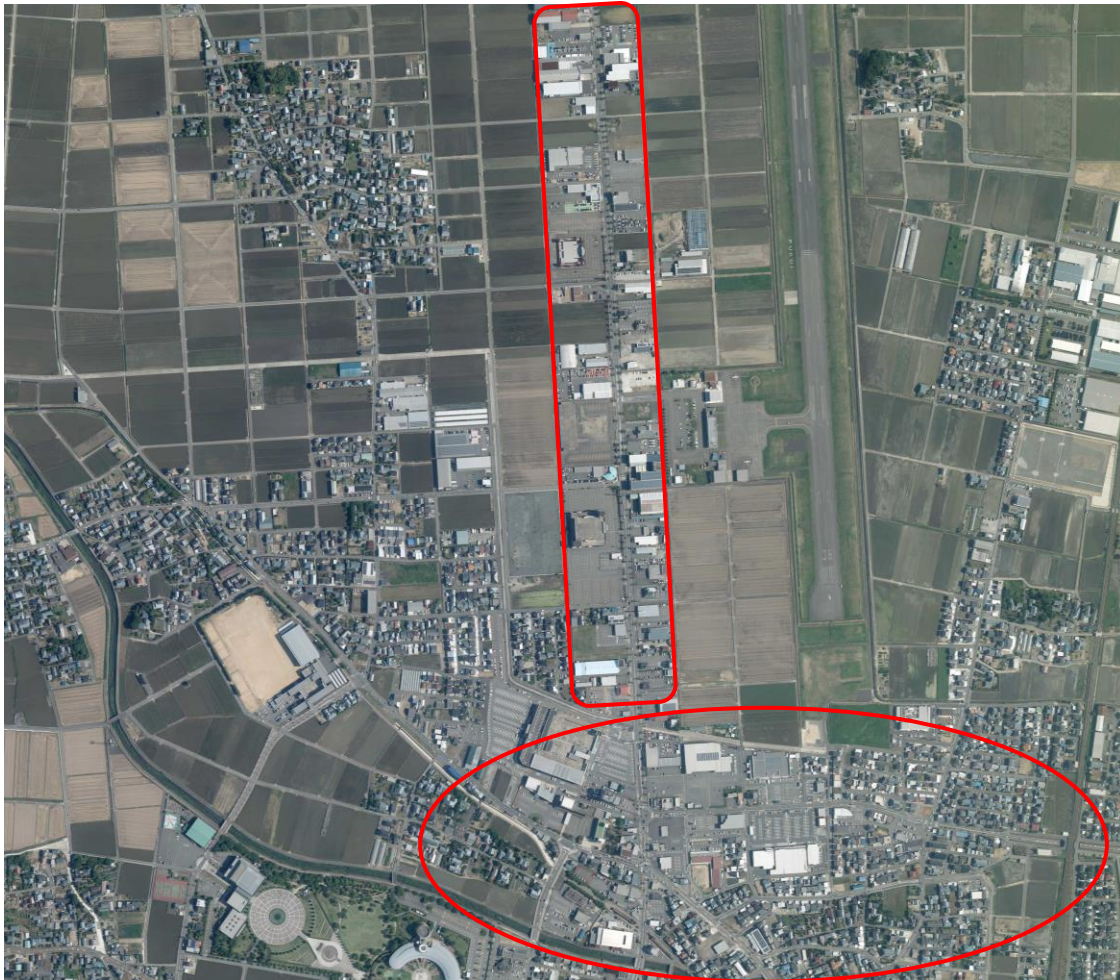


- ・ 空港前の道路沿いに企業や店舗などの建物が建ち始めている
- ・ 空港南側に住宅地が増えてきている

# 7

## 空港周辺の変遷

航空写真（2021 国土地理院航空写真）

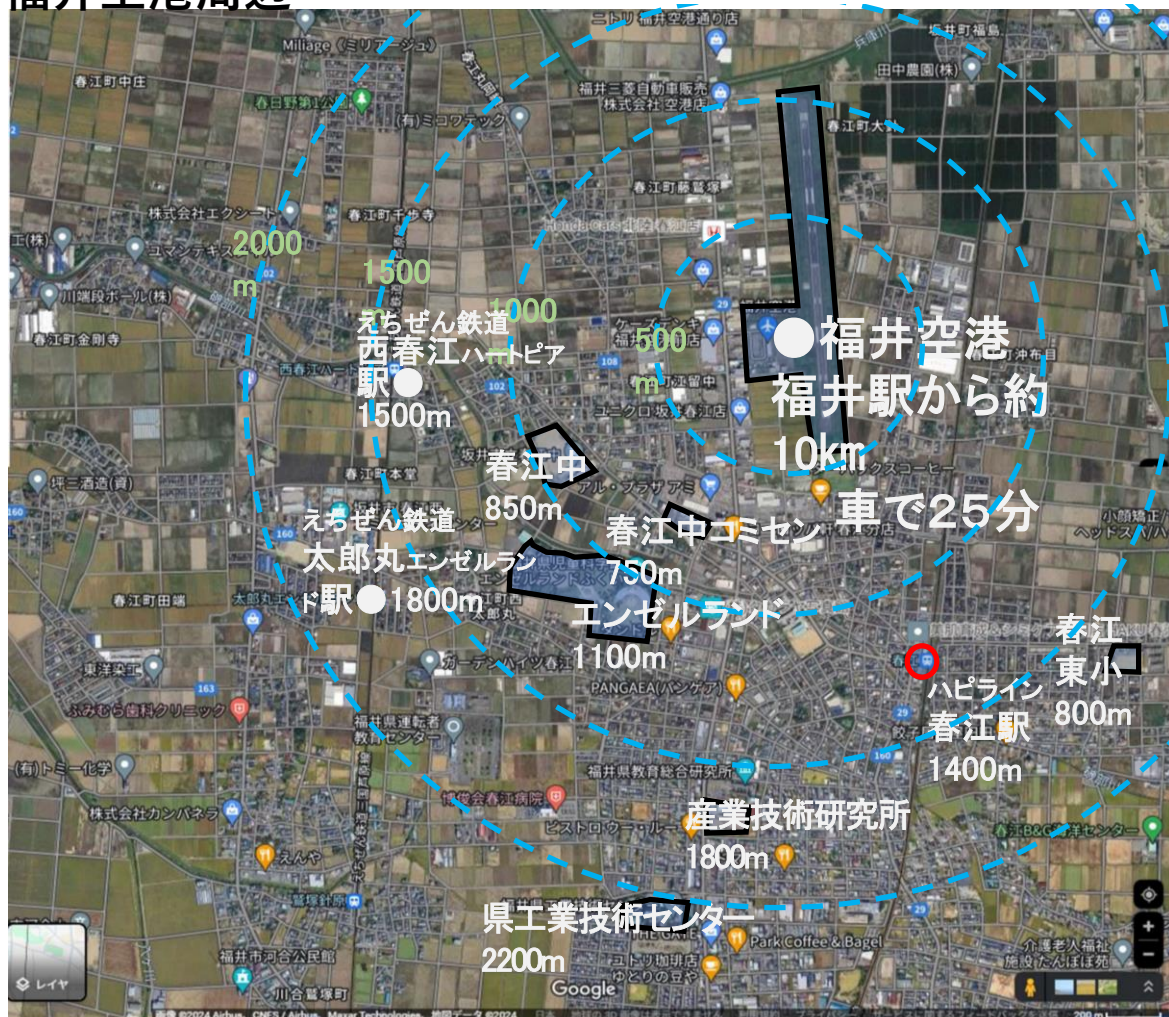


○空港前道路沿いや空港南側の開発が顕著となる

- ・ 空港前の道路沿いに企業や店舗などが連続して建ち並んでいる
- ・ 空港南側の住宅地、商業地に広がりが見られる

# 福井空港と周辺施設

## 福井空港周辺



車で約25分

車で約5分

徒歩で約25分

周辺には、商業施設や住宅街、企業の事業所などが数多く立地する

# 9

## 洪水ハザードマップ

坂井市（春江地区）洪水・土砂ハザードマップより

洪水浸水想定区域は、

- ①想定最大規模降雨（1000年に1回程度の規模の降雨）と
  - ②計画規模降雨（30年～150年に1度の規模の降雨）の条件がある
- （②の場合、福井空港は洪水ハザードマップ上は一部を除いて冠水しない）

